

花巻市石鳥谷地域協議会 平成 23 年度第 3 回会議 会議録

【日 時】

平成 23 年 10 月 24 日（月）午後 3 時～午後 4 時 52 分

【場 所】

石鳥谷総合支所 3 階 大会議室

【出席者】

地域協議会委員 9 名

（欠席委員：長澤勝美委員、田中由一委員、伊藤賢治委員）

市側（支所）：菅原石鳥谷総合支所長、伊藤地域振興課長、照井市民サービス課長、
市民サービス課小原課長補佐、地域振興課佐藤課長補佐、高橋課長補佐、
清水地域づくり係長、熊谷主査

【協 議】

○石鳥谷地域課題について

- ・第 1 回会議で提案された課題について、継続して内容を協議した。
- ・第 2 回会議において委員から提案・照会があった事項について、地域振興課から説明した。（照会事項：①敬老祭について ②放射能関係の諸問題について）

○石鳥谷地域協議会広報の発行について

- ・広報またはお知らせの形で発行の方向となった。

【その他】

会議を傍聴した者 なし

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

※ 会議における配付資料は以下のとおり

「石鳥谷地域における地域課題について」

（参考資料）「広報はなまき」H23. 10. 15 発行No.134 号記事 2～3 ページのコピー

（記事：花巻市の放射線影響への取り組み）

「花巻市ホームページ」掲載ページのコピー

（記事：花巻市における放射線量等の状況）

「放射性物質等についての職員学習会」の抜粋資料のコピー

「平成 22 年度敬老祭事業内容について」

※ 顛末

○ 進行／伊藤地域振興課長

1. 開 会 菅原久男副会長が開会を宣した。15：00

2. 挨拶

菅原昭造会長

ご都合もあったと思いますが、ご参会をいただきましてありがとうございます。私共の任期も残すところ半年となりまして、特に今年度につきましては、この3月11日の震災の関連もありました。今回の会議は第3回目ではありますが、この間に正式に市長から諮問された事項はありませんでしたが、皆さんのいろいろな意味での真摯な研鑽の姿勢によりまして会議だけは続けて参りました。あと半年の間にどういった形で終息させるか正直なところどうなるのかなと思いますけれども、とにかく我々の役割は石鳥谷地域をどうして良くするかに尽きます。フリーの立場でも結構ですのでご意見を賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。今日は第3回になりますが、あと半年となった協議会としてまとめて参りたいと思いますのでよろしく願いいたします。

本日は、協議会として提案しております事項は、前2回に関わった事柄を、ある意味では、再吟味という形で進めて参ります。今までの委員の皆さんからご質問あった事項について資料も整えていただきました。これらを参考にしながら、今日は進めて参りますので、よろしく願いいたします。

3. 協 議

菅原昭造会長

それでは、協議を進めて参ります。これまでの事柄を振り返りながら、改めて石鳥谷地域の地域課題について意見交換をしたいと思っております地域課題について第1回、第2回の発言事項等について、資料にまとめてありますので、これにより総括的に皆さんから意見をいただきたいと思います。

それでは、(1)戸塚森森林公園の整備について意見交換をいたしましたが、その後の皆さんからお気づきの点、ご意見がございましたらご発言をお願いいたします。

伊藤地域振興課長

この戸塚森について、現在、事業をしていますので補足説明いたします。

高橋地域振興課長補佐

戸塚森森林公園の整備について、事業の進捗状況及び前回会議で話題に

なった展望台付近の刈り払いについて報告。

菅原昭造会長

高橋委員さんいかがですか。

高橋貢委員

今年度新堀のコミュニティ会議の事業で、200人位の皆さんを動員しての戸塚森への植樹を11月5日土曜日午前中に行う計画です。

菅原昭造会長

何を植えるのですか。

藤原眞紀男委員

カラスノハネでしたか、キャラクターの縁取りをして形作ろうと。本数は3年ほどかけて数万本という単位で行うことになると思います。田んぼアートの森林版ではどうなるかというようなイメージであります。

菅原昭造会長

大変結構なことのようなですね。2、3年計画ですか。

藤原眞紀男委員

もう少しと思います。

菅原昭造会長

ほかにお聞きしたいことはありませんか。戸塚森森林公園の整備については、ここでも話題になりましたが、地元のコミュニティ会議のほうで積極的に取り組んでおられますし、同時に市役所の方でも主体的に整備に取り組まれておりまして、良かったなというところでもあります。市役所の方で特に付け加えることはありませんか。

戸塚森森林公園の整備につきましては、ある意味では極めて明るい方向に進んでいるということで、この件につきましては一応の決着を付けさせていただきます。

その次、子どもの医療問題についてはどうでしょうか。お医者様のことについては、なかなか大変な面もありますが、照井課長さんの方で何か付言することはありませんか。

照井市民サービス課長

特にありません。

菅原昭造会長

この件については、どうでしょうか。

端的に言いまして医療問題というのは大変深刻な問題でありまして、地域の方々が懸念され、心配されている事柄はそのとおりだと思いますが、なかなか容易でない面もあるようです。ただ花巻地域は開業医も多いし、いろんな形での対応はよその地域に比べれば、遜色はないと思うんですけれども、それでもやっぱり小さい子どもさんをお持ちの親御さんは心配もあるようであります。これについては、2回目の検討事項でいろいろのお話がありましたが、このあたりでこの問題についての意思決定を閉じてよろしいでしょうか。

(頷く者あり)

菅原昭造会長

それでは、医療問題については、いろいろな面でこれからも再三再四いろいろな面でご意向があるかも知れませんが、子どもと限定した医療問題については一応の決着とさせていただきます。

3番目の町のイメージアップ戦略についてであります。これも前回からの継続とさせていただきますが、この際フリーで話し合いをお願いいたします。これはいろいろな面で継続して検討していかなければならないことだと思いますが、藤原委員さんいかがでしょうか。

藤原眞紀男委員

この住んでいる石鳥谷が、これほど住みやすい町と言いますか、津波の心配があるわけでもない、北上川は少し災害ありますけれども、山崩れがあるわけでもないし。新幹線は近いし飛行場もあるし。企業が少ないということはありません。都会で稼いでこの静かな町で暮らしていただくというのもいいのではないかと思います。何かそういう中で、こういう住みやすいところだけでも、テーマが何だろうか。先程会長さんがおっしゃったように、医療の問題も医療保険だって10年後はどうなのかと、自分のことは自分でとか、自宅で療養でとか、いずれ明るいような感じはしないんですけれども。何かそういう中で、この健康というようなことをテーマにした、このイメージでもいいのではないかと思いますし、あまり歴史的なことよりも、何か、何でもいいから一つこの看板を、せっかくこういう委員さんがおられるので、さわやかな、スカッと若い人達を感じるような看板を一つ作ってはどうかと思うのですが、出来ることであれば特に駅前とかですね。やはり石鳥谷の駅前は花北青雲の生徒ですとか、若い人達が利用するところですから、何か将来に向かっての何か町のイメージというものを感じさせるようなものができればなあと個人的には思います。

菅原昭造会長

菅原委員さん。

菅原久男委員

私はものすごく賛成なんですけど、南部杜氏の里というイメージは立派な道の駅の所にありますから、また分野をかえてあッと思うような何かあればと思います。確かに南部杜氏の里というのはそれなりの分野だと感心を持っております。若い人ということとなった場合には、いいアイデアだなと思った次第です。これをなんとか進めたいと。この支所の空いているスペースを利用して、そこに行けばいろんな資料がありますよという紹介の仕方、結構いい活動が出来るのかなと思っておりました。いずれにしても、駅に降りて町に出ていただくことが大きな目的だと思います。

菅原昭造会長

池野恋さんのイメージのお話ですね。皆さん方から、フリートーキングで行きます。さいとうたかをさんも石鳥谷にご縁のある方ですね。大きな意味で全国に知られた作家の方々であります。ほか、町のイメージ戦略について。

さてこの問題の処理についてももう少し検討させていただきたいと思うのですが、淵澤委員さんはどうお考えでしょうか。

淵澤節子委員

イメージを高めるのか、きちっとした目的を持って話し合いをしていった方がいいのではないかと思います。さっき藤原さんがいったように、健康をテーマにとか、さわやかな看板ならさわやかな看板で、絞っていったほうがいいのではないかと思います。

菅原昭造会長

北海道下川町（ピアシリシャンツェのある町）の冬の寒さを逆手にとったアイスクャンドルの取組みと、福島県飯館村長の酪農の担い手を若妻にして農業のイメージアップという発想の紹介。

菅原昭造会長

何でもいから、私共石鳥谷地域もピカッと少し光る何かを焦点化してイメージアップの戦略に持ち込んでと、こう思うんですけども皆さんいかがでしょうか。池野恋さんのアイデアがあれば、この際ご提供いただきたいと思います。

川村茂さんいかがでしょうか。

川村茂委員

私が思うのは、今の石鳥谷地域は基本産業の農業もだめだし、それから酒屋も

つぶれてるし、町を歩けばシャッター商店街であるし、言えば何だけれども取り柄のないところが特徴だと。これは、戦略的に考えてもやはりここに産業を持ってくるなり、或いはお金を生み出す手法を考えるなりしなければ、特徴のない地域に変わらないのではないかと思います。

しかも、私は八重畑の猪鼻というところで暮らしているわけですが、私の集落の中でさえ後継者がいなくて、そして農地が荒れ始めている、という状況は災害があろうとなかろうと同じ状況であると。日本経済のせいにはしません、日本経済が活発にならない限りはそう1年や2年で回復は見込めない。自分たちの中でこの地域を盛上げて行くかということは老人クラブの人達だけの先行きのない希望の薄い人達に任せるより、若い人達が定着して出てこれるような環境を作りたい。だけれども今の経済状況と賃金体制の中ではそれもままならないということですから、一体どうすればいいんだということになるんです。てっとり早く近隣の北上市をみると、工場を引っ張ってきてとか、雇用体制の建て直しをするような力がこの地域に向けられないといつまでたっても変わらないと思われてなりません。

菅原昭造会長

若い人達や子ども達が将来にわたってこの町に住んで良かったと、或いはこの町に住みたいとこういう形にするためには、わが故郷は素晴らしいという環境を整えたいと。特に現役世代の人達には、本当に自信を持ってこの町に残れと言えないと。そういう意味で町をどうするかそれがイメージアップという形になると思います。

川村委員さんのように特徴のないのが特徴ということになるのでしょうか。どうなんでしょうか。逆に言うと恵まれている地域ということにならないでしょうか。衰退は多少ありますけれども。大きな懸念される事案はないし、交通はものすごく便利だしということもあって、ある意味では切迫感がないというか、危機感がないというか。

川村茂委員

恵まれていると思うならば、例えば、行政的にも積極的に宅地造成なり環境整備して、積極的に人が定着するような努力をしなければならぬのではないのでしょうか。ぼろぼろになったままとさらけ出しているとしか思えない。

菅原昭造会長

さて、この問題はなかなか難しいですね。熊谷委員さん、若手の代表まだまだ若いということでどうぞ。

熊谷幸雄委員

イメージが浮かびません。ここが暮らしてきたところなんだというような。

菅原昭造会長

いつも思うんですが、光林寺さんでいろいろとイメージアップにつながるようなユニークな事業が多いですね。ああいうものを石鳥谷地域全体に波及出来ないのかなという感じがしますよね。寺子屋ばかりじゃなく、寄席とか大変な反響があります。

熊谷幸雄委員

こういうことばかりではなく、そういう考えを持つ人を作らなければならないんじゃないですか。イメージを高めましょうと言うけれども、イメージは人それぞれ違うし、そういつて町全体でと言っても、花巻市のイメージでいろいろ計画を立てても、そのイメージを実際に形にできる若い人がいない。結局はそういったイメージづくりや発想があっても、それを伸ばしていくなり、それを育てて、実際にやる人を作っていないと、それこそイメージ倒れになりかねないし、年取ったから若い人達でやると言っても、そっち（そういう考えを持つ人）を作らなければならないのでは、と思います。今感じているのは、まず時代を過ごしてきた人達が、昔と違ってこうなったからこうしなければならないんじゃないか、という方向が多すぎるんじゃないのかなということです。

私は、今まで、福祉等の会には参加してきましたけれども、果たしてこれから今までと同じ流れで同じことが出来るかと言うと、疲れている状態です。同じことを20年やればみんなが見切りをつけるように、年数が経てば変わるように、やはり引き継いでくれる若い人、動いてくれる人を今のうちから作っていないと、ますます石鳥谷町のイメージが悪くなると思います。

三井さん（光林寺ルンビニー苑）もまだまだいろんなことを手掛けたいと、手掛けようと思っっているようですが、人数が揃わない。施設であれば、施設の従業員でこれ以上の仕事をしたいと、発想する人が言った時に、必要な人員が集まって、給料なりそれに沿ったものが伴って発展していけるのかということになるんじゃないかなと。

だから若い人に、さっきから言っている経験者の人達が後押しをして、こうだよと導いていくようなことをやっていかないとだめなんじゃないかと。高齢者が多くなってくるのでその人達の力を借りていくような石鳥谷町のことをしないと、どっちも（若い人も高齢者も）大切なのだと思います。

菅原昭造会長

はい。その他ございませんか。それでは絞って参りますが、この3番目のイメージアップを高めたいという課題につきましては、具体的に提案されておりますイメージアップのための、いろんな形で池野恋さんとの宣伝活動ということ。例えば、駅前に広告塔等という提案がされておりますが、こういう形を一つの考え方にしながら、施設の空き部屋の活用で関連の資料を紹介し、閲覧できるような

仕組みも一つの方法だと思います。イベントを考えるとすれば既存のイベントに組み込んでいく。それらの組方を考えていく。そして、これらはまだ年度がありますので、継続的に検討していくということでもあります。まだ簡単に絞れるものではないですが、これでよろしいでしょうか。

それでは、3番目につきましては、検討課題としては、広告塔の設置ですとか、作品紹介コーナーの設置、既存の空き施設の活用を含めての検討ということとしたいと思います。

今度は4番目に参りますが、なかなか難しいことではありますが、継続検討事項ということで話を中断しておりますので、資料はお手元をご覧くださいと思います。農家というふうに限定はしないものでありますが、結婚しない人達がたくさんいるというようなことでの課題提供であると感じました。お知恵がありましたらご発言ください。

藤原眞紀男委員

結婚したくないというのは、女性の方なんでしょうか。

川村茂委員

私が思うのは、経済格差が若者の中にもあるということなど、いろんなことがアンバランスだということです。不安定な収入により経済的に生活が安定しないことであったり、経済的に安定していても長時間労働であったりして時間の余裕がないとか、親のすねをかじって生活している子が、親が亡くなると暮らしていけないような家庭環境やしつけなど、外部からの働きかけでどうなるものではないことは皆さんおわかりのとおりです。

藤原眞紀男委員

今回の震災で、いくらか“縁”というか“家族”というものの大切さというものを感じた人も多かったんじゃないかなと思います。独身者でも。

菅原昭造会長

主濱委員さんどうお考えですか。

主濱芳江委員

先ほどの川村さんの意見で、本当に若い人達の大変な時代だと思います。

菅原昭造会長

ニート、フリーターとごく当たり前に使われていますものね。

主濱委員さんいかがですか。

主濱芳江委員

まだ、経済的に余裕のない方が多いのではないかと思います。余裕のある方は趣味にいき、結婚に興味に向かない方も多いのではないかと思います。農家に限らず、身の回りに結構40代になっても独身の方がいますので、難しい問題だと思います。

菅原昭造会長

高橋委員さんご意見いかがでしょう。

高橋貢委員

個人の問題だという意見もあると思いますが、やっぱり、本来大きな国の問題でもあると思います。いろいろ世の中が変わっていて、一人で自由気ままに生活していい時代もあるでしょうけども、年を重ねると絆を考える時もある。

私事ですけれども、先日結婚式にお呼ばれしまして、十数年ぶりの結婚式で、逆に言うとそれくらい身の回りにも結婚した人が少ないかなということを感じました。お葬式はあるが、お祝いを出す機会はないということです。

菅原昭造会長

全く同感ですね。私も今月、十数年ぶりに結婚式の披露宴に呼ばれましたが、職場の社会福祉協議会の方はさっぱりないです。

鈴木俊一委員

今、学校も子どもがかなり減っています。私は新堀小学校ですが、来年は15名くらいしか入らない、自分がいたころに比べると半分に減っています。PTAやるにしても、なんとかしてもらわないと人がいなくなったり、行事を見ている運動会とかさみしいなと思うことがあります。

卒業生を送ると1年生が入っても全校で5人くらい減ります。

菅原昭造会長

結婚しないから、子どももいないのは当たり前ですね。

さて、これはどうしましょうか。

菅原久男委員

今、市の方では、婚活問題について検討されていますか。

菅原昭造会長

社会福祉協議会でも出会いの場をつくっていますが、人は集まりますが成就したというのは数多くありません。市役所では何かありますか。

以前は、随分長いこと農業委員会でも事業をしましたが、実りがないということでもなくなりました。

菅原久男委員

結婚は人にやれと言われてするものじゃないので、第三者がいろいろ働きかけて活動するというのは大変だと思います。

菅原昭造会長

今の披露宴はほとんど媒酌人がいませんね。頼まないとしても、いずれ仲立ちする人、媒酌する人がいなくなったということもあるかもしれません。いずれこの件は継続といたしましょう。なかなかいい知恵が浮かびません。ここにあるように、サポートの体制が必要だということになっておりますので、これらも参考にしながらまた継続といたしましょう。

伝統芸能の継承については、これは11月6日の町人会での発表のため東京へ郷土芸能の団体が行くようでありますけれども、そういう場があればいいということで結ばせて頂きます。

他に皆さんで更に付け加えることがありましたら、ご発言いただきたいと思います。

鈴木俊一委員

新堀小学校ですが、学校で神楽（しんがく）をやっています。小学校低学年の子どもさんも神学クラブに入って踊っています。そういうふうに伝承されているのかなと感じました。

菅原昭造会長

やはり、みんなの前で発表する機会があればこういうふうが続くんですね。大瀬川で35人東京に行くそうですが、若い人行きますか。

菅原久男委員

小学生、中学生、高校生と行きますね。そこで大体半分近くです。

菅原昭造会長

ただいま小学校の例もありましたように、こういう発表の場を設けての伝承活動が一生懸命なようではありますが、夏にいしどりや荘で夏祭りをやった時に、新堀のさんさ踊りが来まして、若い人達がたくさん来ました。こういうふうに若い人達が関わってくればいいと、そういう実感を持ちました。ですから、施設慰問なり、学習発表会なり、大きく言えば東京公演等の発表の場があれば後継者の伝承は続いていくのかなと思います。

これに加えることはありますか。

菅原久男委員

花農は鹿踊りが学校のクラブにありますが、学校では芸能の時間はありましたでしょうか。

川村茂委員

各小学校では、それぞれ地域のものを行っています。私が知っているのは、専大北上（高校）は、舞踊と新舞踊で高文祭で活発にやっていますね。一番伸びるのはやっぱり高校生ですね。あといわゆる民謡とかそういうのは、学校でやったとしても、校長先生が変わると教育方針が変わるので続きません。

菅原久男委員

保育園は、鹿踊りをやっていますね。

菅原昭造会長

今、川村委員さんがおっしゃった通りですね。学校長なり副校長がその方面に熱心な人がいればいいのですが、もともと学習指導要領にないものなので、校長さんが変わったとたんに変わってしまうということはあるようです。そこを支えるのが地域の方々だということで、以前から伝統的なものに対しての理解がある地域の方々に、バックアップも大変一生懸命ということもあって、後継者が続いているのではないのでしょうか。

そういう訳で、高橋委員さん結んでよろしいのでしょうか。

高橋貢委員

はい。

菅原昭造会長

それではその次に参ります。東日本大震災の関連であります。事務局で資料を準備しているようであります。関連させながら話題にさせていただきます。高橋委員さんから提案があった事柄についてはこの前いろいろあったわけですが、今日は新たに川村委員さんからお話がありました放射能関連の原子力の参考資料を出していただきましたので、これを見ながら震災関連の事柄を進めて参りたいと思います。説明をお願いします。

伊藤地域振興課長

はい。

清水地域づくり係長 放射性物質について資料により説明。

菅原昭造会長

はい。放射能について難しいところはありますが、説明の最後に普通の生活を

送って全く問題がありませんとありますので、科学的な根拠があつてのことであるとの説明です。何か質問ありませんか。

川村茂委員

今の説明は、一般的にされているのですが、私たちは発表する立場によって色々な表現方法が違うので私たちはどれを信じたらいいのかわからないというのがあります。もう一つは、先ほど説明のように、セシウム30年、ストロンチウム25年、という長きに亘っての定着ということ。0.1とか1.2という数値は、安心だからとそのまま鵜呑みにしていいとか。少なくとも震災が来る前はこういう数字はなかったことだし、それから測定した実績もなかったと思うのですが。しかし、その後においてこういう数値があるということは、例えば、先ほどの牛肉にしろ、蕈にしろ、腐葉土にしろ、これらは10年間の間に積もるわけですよ。接し続ければ、そういうことによって内部被ばくとかいうふうな状況が出るから、今騒いでいるのではないかと思うのですが、その辺はいかがですか。

菅原昭造会長

コメントありますか。

清水地域づくり係長

私は専門家ではありませんので、そこまでは断定した発言は控えさせていただきたいのですが、いずれにしても、原発での放射線放出だというイメージのほうが強いのではないかと思います。それが福島とか被災した地域においては、それが非常に高い濃度で表れているということがやはり問題だと思います。それでは花巻が全く問題ないのかということについては、いろんな生活面なり産業に影響があったということなので、一概に何もないということではないのですけれども、我々が生活している中で今後そういったバックアップデータを取りながら、やはり注視しながら普通の生活をしていくのがいいのではないかなと思っていますので、専門機関の取り組みと共に、我々も関心は持ちながら普通の生活を送っていただきたいなということを、まず市の方では言っている所でございます。よろしくお願いたします。

菅原昭造会長

他にどうですか。

藤原眞紀男委員

子ども達は特に検査の予定はないですよ。と言いますのは、特に福島は被ばく地なわけですが、小・中児童、幼児、大体50万人くらいが対象で検査しているでしょう。それは、DNAが欠損するということは次の世代への影響であり、代々欠損していくということが問題であるということのようなんだけれど

も、福島が終われば宮城か、県の主導で行われるのでしょうか、その辺の情報はありますか。

伊藤地域振興課長

聞いていません。

藤原眞紀男委員

はい。

菅原昭造会長

放射能を浴びれば癌になると、正直なところ、一般的にはそんなことしかわからないですね。特に小さいお子さんをお持ちの親御さんには、関心があるのではないのでしょうか。一番心配しているのは、小さいお子さんや次の世代に癌体質が引き継がれていってしまうことでしょうか。花巻地方は今の話ですと心配のないレベルなようではありますが、関心を持っていきたいと思います。いずれ新聞等の数値でなんとなくわかりますけども、根拠数値はわかりませんね。資料を提供していただくことは有意義なことと思います。

6番目にあります東日本の関係の震災関連の課題につきましては、防災組織の事柄がこの前ありましたので、現在も各行政区で自主防災組織が進んでいるようであり、勉強会がスタートしているようで、震災を機に加速されているように聞いております。

伊藤地域振興課長

そうですね。

菅原昭造会長

前向きになっているようですので、その辺ちょっとお願いします。

伊藤地域振興課長

この前も大瀬川、八日市でも集まっているようです。当課では自主防災の関係組織を、今年度中に行政区単位に作ると聞いております。八幡は2つありますがもう一つ出来ると聞いております。好地地区も今年度中にいくつか出来ると聞いております。八重畑と新堀地区は全域で出来ておりますし、だんだん石鳥谷地域でも増えていくと聞いております。

菅原昭造会長

では、高橋委員さんから提案されたこのことについては、民生委員との関わりについていろいろとあるようですが、自主防災組織づくりについてはかなり進展しているというふうにご理解いただきたいと思います。ほかこの話題につきまし

て何かありますでしょうか。それから放射能について改めてお聞きしたいことがありますでしたらこの機会にお聞きください。よろしいですか。お互いに勉強していきたいと思います。

今日の地域課題の事柄については時間も時間でもありますので、このあたりにしたいと思いますがいかがでしょうか。

(頷くものあり)

菅原昭造会長

それでは、その他ということで提案させていただきます。私の方から一言だけ申し上げますが、この地域協議会は第3期になりますけれども、発足する時に、委員から提案がありまして、地域協議会の存在、審議経過、或いは当面取り組まなければならない協議題、あるいは課題について一般の市民にお知らせする必要があるのではないかという提案がありました。昨年度は、公式の諮問事項もあり、答申もありましたが、平成23年度に入りまして、一般市民にお知らせすることに関して協議継続ということになっておりました。ご記憶のことと思います。そういう話がありましたが、改めて、今日はこのことについて、話題にさせていただきます。

年度初め、或いは年度末にお約束をするのが筋だとは思いますが、23年度も後半に入ってしまったけれども、いかがでしょうか。これまでの審議経過を一般の方々に地域協議会というものは、こういったことを話し合っているんだということをお知らせすることが必要とお考えでしょうか、或いはしばらく様子を見ようとお考えでしょうか。その辺についてお互いのご意見をいただきたいと思います。最初の話合いの時は、必要な場合は出しましょうとお知らせ版のように、全戸配布ではなく、班単位くらいの回覧でという話だったと思います。今いましてということではありませんが、おそらく2回か3回会議があると思いますが、そのことが必要かどうかということも含めて、皆さんのご意見をお伺いいたします。

菅原委員さんいかがでしょうか。必要ありませんか、ありますか。コミュニティ会議で出すとかでよろしいですか。

菅原久男委員

コミュニティ会議の会報では、実はこの会議の話題は出していません。もし、そんなに大げさでなく業務の負担にならない程度に、お知らせを出すということはあってもいいのではないかと思います。

菅原昭造会長

藤原委員さんどうでしょうか。最初の会議の時のことですが。

藤原眞紀男委員

例えば、コミュニティ会議の方々の前で話せば、その関係の方々はわかるでしょうけれども、せつかくの会議でもあるので何らかの形でお知らせすることは必要のかなという感じはします。

菅原昭造会長

川村委員さんいかがですか。

川村茂委員

広報か何か出して、皆さんの意見を聞くのも一つと思います。

菅原昭造会長

熊谷委員さんどうですか。

熊谷幸雄委員

何年度には、こういう項目を協議しましたという項目だけで十分だと思います。それに対して、意見もらっても討議する場がない。それに対してはこの場じゃなく市で受けてもらってもいいでしょうし、項目だけで。具体的には何枚あっても足りないでしょうから。何の項目が話されましたと、嫁婿の課題は具体策が見つからないとか、継続審議とかのコメントを付ける形でいいのではないかと思います。

菅原昭造会長

渚澤委員さんいかがでしょうか。

渚澤節子委員

去年は皆さんにその都度報告していましたが、私も石鳥谷町女性団体連絡協議会を離れしまったのでお知らせする機会もないので、出していただければいいなと思います。

菅原昭造会長

高橋委員さんどうぞ。

高橋貢委員

はい。私は途中からなのですが、会議そのものは公開しているということで、やはり何らかの形で皆さんに提示できると思います。求められた場合でもいいでしょうし、或いは広く皆さんに広報とかする方法も悪いことではないと思います。

菅原昭造会長

公開していますから、第1期か2期の時には、確かに傍聴者もおりました。今

年はいませんが、正しく公開はしています。

鈴木委員さんどうですか。

鈴木俊一委員

皆さんと同じで公表したほうが良いと思います。

菅原昭造会長

主濱委員さん。

主濱芳江委員

簡単な項目だけの広報であれば良いと思います。

菅原昭造会長

はい。それではですね。時期につきましては年度のまとめということでいいのではないかと思います。通常のお知らせ版的なものという形で多分2月になるでしょうか、3月になるでしょうか、いずれ審議経過を項目的にしなければならないかと思えますけれどもお知らせをすることに決めたいと思えますがよろしいでしょうか。

(頷く者あり)

菅原昭造会長

どうでしょう、色々ご希望もあろうかと思いますが、ある程度項目がまとまった段階でこの会議で確認してから出すようにしたいと思えますが、それでよろしいですね。

(頷く者あり)

伊藤地域振興課長

はい。協議会は諮問以外は自主的に集まっているので、広報的なものも皆さんでというのが理想論ですが、現実問題として、そうもいかないでしょうから、最後の集まりの時にでも、当課の方でA4判1枚くらいにでもまとめて皆さんのご意見を伺ってはどうかと、お話を聞きながら思っておりました。出来ればと思っております。

菅原昭造会長

それではそのように、皆さんがそれをご覧になってそれでは、となった時に出すこととしたいと思えます。ありがとうございました。私たちとしては、ある意味では、必要な内容は全部でありますので、かなりの数ではあると思えます。お

互いにかかなりの時間を割いてお集まりいただき、しかもボランティアで、この事柄は、町民・市民にお知らせしてしかるべきと思いますし、これが土台となって来年再来年にいろんな意味で検討課題が充実されていけばいいのかなと感じます。よろしいですね。

(頷く者あり)

伊藤地域振興課長

はい。(挙手)

菅原昭造会長

はいどうぞ。

伊藤地域振興課長

前回、川村委員さんからお話のありました敬老祭について資料の説明をさせていただきます。

平成22年度資料により説明。

菅原昭造会長

次回以降、23年度の資料もまとまると思いますので、このことについては改めて話合いの機会を持ちたいと思います。よろしいですね。

(頷く者あり)

4. そ の 他

菅原石鳥谷総合支所長

防災懇話会の開催について日程、内容説明をした。

次回会議について、11月開催とした。

5. 閉 会 菅原久男副会長が閉会を宣言した。16:52